■プログラム名

大学の世界展開力強化事業プログラム（ツイン型学生派遣プログラム（ツインクル））

■現状及び展望

【ASEAN 諸国学生受け入れ】 2014 年度より学生の受け入れを開始した。ツインクルプログラムにおいては①本学学生の科学教育教材作成の支援（特に ASEAN 諸国の教育事情、彼らの教育体験を踏まえて）、②日本における科学教育の現状把握（本学附属校での見学等）、③各研究分野にそった研究室でのゼミ参加・実験、といった3点を主な内容として実施した。結果学生たちから、大学院（博士課程）で本学への進学を希望したり、将来教員になる際に日本の科学教育の教材やカリキュラムを参考にしたいという意見が多く聞かれた。

【本学学生派遣】 2年目の本学学生派遣においては、派遣先の1つであるタイ（バンコク）が政情不安定等の事情によりやむなく派遣を中止せざるを得なかったが、およそ目標数値通りの派遣人数を達成した。また、初年度に比べ各大学との連携を迅速に進めることができたため、前年よりも設備の必要な実験なども実施することが可能となった。また、ロング・ショートのコースも今年度から実施し、より現地に入り込んで教育内容を作成したことから、先方から教育内容に深みが出たとの意見が聞かれた。

【今後の展望】 さらに参加学生の研究分野を広げることでより多様な教育実践を行うことと、（派遣・受け入れともに）長期学生の実習を今後の研究交流に積極的につなげていくことなどを想定している。

■問題点及び制度上の改正希望

【プログラム実施時期の調整】 ASEAN 諸国と日本とのアカデミックカレンダーの違いによる、派遣/受け入れ期間調整について。他プログラムの経験や対応策を共有できればと考えている。

【JASSO の奨学金枠について】 何名の枠が確保できるかという通知を早めていただくか、もしくはいつの通知になるかということを早めに通達していただければありがたい。

【予算状況について】 予算の逡減により、当初の計画通りの学生交流を進めていくにあたって、安全を確保しつつ遂行することが難しくなることが危惧されるので、対応策を協議できれば幸いである。

【事業採択校同士の情報共有】 年数回の連絡会に加え、各採択大学同士の実施状況を簡単に把握し合えるような仕組みを考えたい。ASEAN の相手大学同士が AUN など既にネットワークを形成しているので、日本国内でも類似したような取り組みができないか。

■学生交流数

交流方向	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度(※)
受入	0 名（開始前）	0 名	84 名
派遣	0 名（開始前）	39 名（40 名のところ 1 人病欠）	80 名

(※) 予定含む